

## 《開催にあたって》

伝統的工芸技術である和紙は、古くは8世紀から作られています。植物原料を加工した手漉和紙は、日本の農山村や町で生産され、さまざまな発達をしてきました。

なかでも伝統的工芸技術である「石州半紙」（島根県浜田市）、「本美濃紙」（岐阜県美濃市）、「細川紙」（埼玉県小川町）の3件は2014年に「和紙：日本の手漉和紙技術」としてユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。

本展では、記載されている3件の楮（こうぞ）のみを原料に用いる和紙をはじめ、各地に伝わる和紙の製作技術と伝承のとりくみを紹介し、和紙文化の伝統を探ります。また、ここ堺に近い和歌山県高野山麓で継承されてきた高野紙について、その伝統を継承している西細川活性化実行委員会・高野細川紙研究会の皆様のご協力を得て、ご紹介いたします。



本美濃紙の包紙

## I ユネスコの無形文化遺産に記載された 石州半紙・本美濃紙・細川紙

- ①『紙漉重宝記』の世界に見る石州半紙の製法
- ②本美濃紙の原料と製法
- ③細川紙の産地での伝統産業

## II 和紙文化を訪ねて

- ①日本各地の和紙
- ②堺名産の湊紙の謎
- ③屏風の裏に眠っていた和紙の世界

## III 高野紙：伝統文化への招待

- ①和歌山県高野山麓で発達した製紙技術
- ②現代に生きる伝統和紙の世界一地域での実践一

### ◆学芸講座

5月19日（日）午後2時～3時30分

「江戸時代の堺名産と湊紙」

講師：矢内一磨（当館学芸員）

会場：博物館ホール（定員100名・先着順）、事前申し込み不要。当日直接会場へ。  
講座の後、展示品解説を行います。展示品解説に参加の場合は、要観覧料。

### ◆講演会

6月2日（日）午後2時～3時30分

「高野紙の魅力」

講師：明松政二氏（紙漉作家）

会場：博物館ホール（定員100名・先着順）、事前申し込み不要。当日直接会場へ。

### ◆ワークショップ

6月8日（土）午後2時～3時30分

「版木で高野紙に印刷をしよう」

講師：竹本良昭氏

会場：博物館ホール（定員30名）

参加費：無料 **要申込・先着順**

《申し込み方法》5月17日（金）午前9時30分より、電話・ファックス・電子メール（いずれも表面参照）で受付。

江戸時代に作られた版木を使い、高野紙などの和紙に印刷をする体験をします。作品は持ち帰っていただけます。

### ■次回の予定

特別展「古墳—巨大墓にエネルギーを投じた時代—」（仮称）  
7月6日（土）～9月23日（月・祝）



和紙人形(石州半紙)



和紙で作った照明器具(小川和紙)



楮を蒸す(高野細川紙)



紙を漉く(高野細川紙)

### 展示品解説

①5月18日(土)、②6月16日(日)

いずれも午後2時から30分程度。  
事前申込不要、直接会場へ。  
要観覧料。



### ◆交通案内

電車 JR阪和線「百舌鳥」駅下車徒歩約6分  
バス 南海高野線「堺東」駅から  
南海バス(40系統約10分)、  
バス停「堺市博物館前」下車徒歩約4分  
駐車場 仁徳御陵駐車場(仁徳陵東南・有料)



堺市博物館公式キャラクター  
サカイタケルくん  
©YABUCHI Satoshi